

かがやき



J Aはが野芳賀地区女性会（会長 小林 功子）
会員が毎年味噌づくりをしています。麴の仕込みから行っています。
手づくり味噌、わがやの味、守り続けたいですね。

活動紹介



主な内容

- 総会
- 日本女性会議2012仙台
- かがやく町民のつどい
～病気になる体づくり～
- 一年を振り返り

今年度のかがやく町民のつどいは「病気になる体作り」をテーマに竹井真澄先生をお招きしお話を聞きました。その中で、タンパク質とビタミンB群を壊す砂糖は使わずに日本の伝統食の麴の甘さけを使うことを勧められました。芳賀町では味噌を作っている方も多く、麴も身近なので、すんなりと受け入れることができました。

次の日県内の別の場所でも竹井先生の講演があり、甘さけを持って参加しました。皆さん甘さけに砂糖が使われていないことに驚いて地域による環境差を実感しました。つどいのアンケートに「さっそく甘さけを作ります」などの意見があり嬉しく思いました。せっかく恵まれた環境にいるのですから、一人でも多くの方に実践して欲しいと思います。

副会長 小山 佳子

かがやく町民のつどい

こんな試食品をつくりました

春巻チーズ

- ・春巻の皮（小）
 - ・クリームチーズ
 - ・甘さけ
 - ・みそ
 - ・ツナ
- 中身

- ①中身をよくまぜ合わせる
(みその塩分などを見ながら、甘さけ・みそは少量)
- ②フライパンに少量の油をひき、焼き色がつくまで焼く
あるいはオーブンで180℃～200℃で焼く

ポテトサラダ

マヨネーズを使わない

- ・じゃがいも
- ・かぼちゃ
- ・きゅうり
- ・ハム
- ・玉ねぎ（少々）

- ①いつもどおりのポテトサラダの具を用意
- ②マヨネーズのかわりをつくる

みそ	1	を混ぜた
甘さけ	1 ½	
オイル	1	
(グレープシードオイル)		
酢	1	

みだらし団子

- ・団子の粉
- ・しょうゆ
- ・甘さけ

- ①団子をつくる
 - ②しょうゆと甘さけを混ぜてたれを作りあえる
- | | | | |
|----|------|---|------|
| たれ | 甘さけ | 1 | を混ぜた |
| | しょうゆ | 1 | |

甘さけの作り方



- ①お茶碗大盛り1杯のご飯
残りご飯で可…200g
- ②水100ccを入れご飯をよくほぐす
ご飯粒をつぶさないように
- ③更に水100ccを入れ混ぜる
- ④麴（こうじ）200gを入れ混ぜる
乾燥麴の場合は水350～400g必要
- ⑤電気炊飯器の「保温」を利用し保温
- ⑥炊飯器のふたを開けたまま、タオルなどをかけて約8時間置く（ときどき混ぜる）
- ⑦とろーりと、甘くなっていることを確認
- ⑧容器に移し、冷蔵庫で保存
2週間程保存可 長期の保存は冷凍で
※炊飯器のふたを開けたまま置くことで、麴の菌が広がり、悪いカビの発生を抑える

編集委員

菊地富士子 増淵さつき
齋藤 芳子 大島 知子
酒井 由理 小林 功子

編集後記

私ごとですが二月は大変忙しい月です。広報委員の皆さんには申し訳なく思っています。また、今年度の研修として日本女性会議に参加したところにより、多くの方に原稿をお願いしましたところ、心よくお引き受けいただき「かがやき」の発行を迎えられ、心よりお礼申し上げます。



日本女性会議2012仙台

Japan Womens' Conference in SENDAI 2012

大会テーマ

「きめる、うごく、東北から」

東日本大震災から約1年半、全国の皆さまから温かい励ましとご支援をいただいたことに、心より感謝申し上げます。震災、そして原発事故で、仙台をはじめ東北は大きなダメージを受けました。ここからの復興は震災前に戻ることではなく、より良い社会をつくりあげていくこと、すなわち、男女共同参画と共生にもとづくコミュニティの再生に他なりません。それには、女性たちのさらなるエンパワメントが必要です。

この「きめる、うごく、東北から」という仙台大会のテーマには、復興の担い手として、女性たちが意志決定の過程に加わり、その責任とともに行動していこう、「自ら決めて、動いて、社会を変えていこう」という強い思いを込めました。

今、この時だからこそ、ここ被災地から、「女性たちには社会を変える力も責任もある」ことを、ともに発信しましょう。そして、日本中で行動につなげていきましょう。

「日本女性会議2012仙台」ー今日この日が、その始まりです。ー大会プログラムよりー



スケジュール

10月26日(金)

- 13:30～13:50 開会式
- 13:50～14:10 基調報告
日本の男女共同参画施策の現状と今後の課題について
- 14:30～17:00 特別プログラム
「女性たちが語る 3.11～これまでと今と」
- 18:00～19:30 交流会

10月27日(金)

- 9:30～12:00 分科会
 - ① 復興・防災に女性の声を
～出す、ひろう、生かす
 - ② 「困難すごろく」でみる女子の生きづらさ
 - ③ 役に立つ「人権」の話
 - ④ 東日本大震災・原発事故と母子支援
～妊産婦と赤ちゃんをどう守るか
 - ⑤ 企業でキャリアを積むということ
～わたしたちのネクストビジョン
 - ⑥ 支援から交わりへ
～「外国人妻」が地域住民になる日
- 13:00～16:20 全体会
 - 13:00～14:00 記念講演
女性のエンパワメント
～ノルウェーからのメッセージ
 - 14:20～16:20 シンポジウム
きめる、うごく、東北から
- 16:20～16:40 閉会式



大会資料の中に入っていた
プレゼントの一種
「立ちあガレイ・コースター」

一年を振り返り

会長 廣木 初江



今年度の事業もこの広報「かがやき」の発行を残すのみとなりました。一年の何と早いこと。多くの皆様のご協力とご支援に改めて御礼申し上げます。例えば、仙台の女性会議への参加。ご家族の協力が無くては家を空けるのは難しいのですから、何事、感謝申し上げたい方々は、たくさんいらっしゃいます。

そこでの学びが「普段からもの申す、女性であれ。」ならば私たちは、一層集い、学び合って、この社会に少しでも貢献したいものです。これからも感謝の気持ちをもちながら、活動してまいります。

平成24年度芳賀町女性団体連絡協議会役員

役職	氏名	団体名
会長	廣木 初江	芳賀町ひばりの会
副会長	菊地富士子	J Aはが野芳賀地区女性会
書記	小山 佳子	とちぎつばさの会芳賀支部
書記	増渕さつき	芳賀くらしの会
会 計	酒井 由理	とちぎつばさの会芳賀支部
理 事	関 優子	芳賀くらしの会
監 事	小林 功子	J Aはが野芳賀地区女性会
	大島 知子	J Aはが野芳賀地区女性会
	大根田和子	芳賀町ひばりの会
	荷見イツ子	芳賀町ひばりの会
	岡田 知子	芳賀くらしの会
	大野谷 幸	農村生活研究グループ
	内川のり子	農村生活研究グループ
	綱川みね子	農村生活研究グループ
	齋藤 芳子	とちぎつばさの会芳賀支部

五月二十三日(水)町民会館研修室において、豊田町長、岩村議長並びにご来賓の方々のご臨席をいただき、総会が開かれました。今年は改選の年で、一部役員の交代がありました。川みね子さんを議長に、円滑な運びの議事進行で無事総会が終了しました。総会終了後、「農村生活研究グループ」斉藤恭子さんの女性会議「2011松江の参加報告」と、東水沼の小林久子さんの栃木県次世代人材づくり事業参加報告がありました。



平成二十四年度 芳賀町女性団体連絡協議会総会

共に活動しませんか

芳賀町女性団体連絡協議会では加入団体を募集しております。また、それぞれの団体では、会員を募っております。団体活動の中で、見聞を広げるばかりでなく、語り合える仲間に出会えるはず。町や県の行事や講演会に参加することで、時代の流れを感じることもあります。「小さな力が集まって」の活動にご参加ください。

問い合わせは町民会館、生涯学習課、秋山さんまで、お願い致します。TEL 028-677-0009

日本女性会議2012仙台

「きめる、うごく、東北から」

「きめる、うごく、東北から」
発生した。正確な情報もなく、振り廻され、大きな不安を抱えながらも前向きに頑張っている姿に、私たちはどう支援していったらいいのだろうか？

また東北に暮らす外国人妻たちの中には来日十年以上を経て、地域社会に貢献する「人材」として活躍している人たちがいます。そういった人たちは家族の協力があつて今日だと言っています。また震災後、民族関係なく手を取り合う現場であり、外国人妻という壁がなくなっていたそうです。外国人妻が地域住民になるためには、外部からの支援はもういりませんが身近な人々との交わりがとても大切だと感じました。



大根田和子
未曾有の大震災から一年八か月、まだまだ復興は出ていない中で、震災直後から懸命に地域の極めて弱い立場にあった「妊産婦さん、赤ちゃんたち」の、いの一歩に救いの手をさしのべた医療の第一線で活躍している人たちから身体を張った体験例が発表された。

東日本大震災・原爆事故と母子支援
妊産婦と赤ちゃんをどう守れるか



小林 峰子
国際結婚は言葉の壁や民族性の違い等で難しいと言われています。今回のパネリストの中に

支援から交わりへ
「外国人妻」が地域住民になる日



東日本大震災は被災経験のない芳賀町にとっても大きな被害をもたらした。私たち以上に厳しい試練に立たされた東北の女性たちどのような試練に立ち向かい、力強い歩みを進めているのか交流し、学びを得たいと研修先に決定した。

東日本大震災を経験し、女性達は何を考えたのか、被災時復興時における女性の声を調査した結果が報告された。自由記載から見えた被災女性の生の声はマニュアル化して、防災・復興計画に届く方策をとることが求められる。これまで男性ばかりであった意思決定の場には、女性も複数参画することが望ましい。地域にあかぬ女性がかかわることで、よりよい対応が出来る。そのためには、防災・災害復興に関する教育を推進し、発言の出来る女性を育成していくことも必要である等の問題が提起された。



黒崎 幸恵
パネルディスカッションは、コーディネーターと三名のパネリストで行われた。参加者は七百余名であった。

復興・防災に女性の声を
出す、ひろく、生かす



小山 佳子
3.11の震災後、女性はジェンダー格差による様々な困難に見舞われました。しかし、その困難は震災後突然現れたわけではなく、震災前の困難に起因していて震災によって浮き彫りにされただけだったのです。分科会では、様々な角度から女性の困難を見てきたパネリストが、実例をあげながら困難の原因を模索しました。また模索の一つの手段として、「困難すくろく」を活用し、多岐にわたる女性の困難には必ず選択肢があり、解決の糸口があるという事を可視化し、のびやかに生きるための一歩を踏み出すきっかけとなりました。

「困難すくろく」でみる
女子の生きづらさ

「私とは環境が違うから関係ない」ではなく「あなたも困難は私の困難」を言葉に厳然と存在する困難にフタをすることなく向かい合っていきたいと思ひました。



齋藤 芳子
「人権とは誇りをもって自由に生きる権利であり、どんな自由であっても行動には責任が伴う。」三篠先生の言葉です。さらに、今、社会問題になっている高齢者の人権のお話では特に心に残った言葉がありました。「思いに寄り添う」「一緒に泣きましょー」「日々の生活に追われ、忘れかけた思いをめぐめさせて頂きました。」

役に立つ「人権」の話

そして、暴力被害女性の自立支援を促す活動等がされている八幡先生は「すべての暴力に対してまずは逃げる事、そしてルールのある所でプロに戦ってもらう事が解決の早道です。」とお話しされました。統計でみる子どもの現状や、仮設住宅で暮らす子ども達の様子や色々な問題点等盛り沢山のお話でした。最後に東北の皆さんから、復興はまだまだされていません。どうぞ忘れないで下さいと強く訴えられました。

ひとりじゃないよ
悩んだときは手にとって

チャイルドラインみやぎ5年間のあゆみから
2002年3月25日深夜にチャイルドラインが誕生しました。
5年間、約3万人の子どもの声を聞いてきました。
今、少しおなごに近づきたいことがあります。
そして聞きたいことでもあります。

あなたたちの声を聞いておなごを助けたらいいのね？
これを読んで、思ったことがあったら、チャイルドラインに電話してね。

18歳までの子どもがかけられる電話
チャイルドライン
0120-99-7777

フリーダイヤルです。かけるとお通話は無料です。
公衆電話の場合は10分以内の通話です。通話料はかかる場合があります。
2006年度ドコモ市民活動推進賞の助成金により作成

Sexual harassment
Rape
性暴力
に悩んでいるあなたへ
S
Talking
Domestic Violence
ドメスティック・バイオレンス

ひとりではがんばれないで
仙台市
社会福祉法人せんだい福祉共同事業団
仙台市社会福祉協議会
仙台市健康福祉局
仙台市消防局
仙台市警察本部
仙台市消防本部
仙台市消防本部
仙台市消防本部

